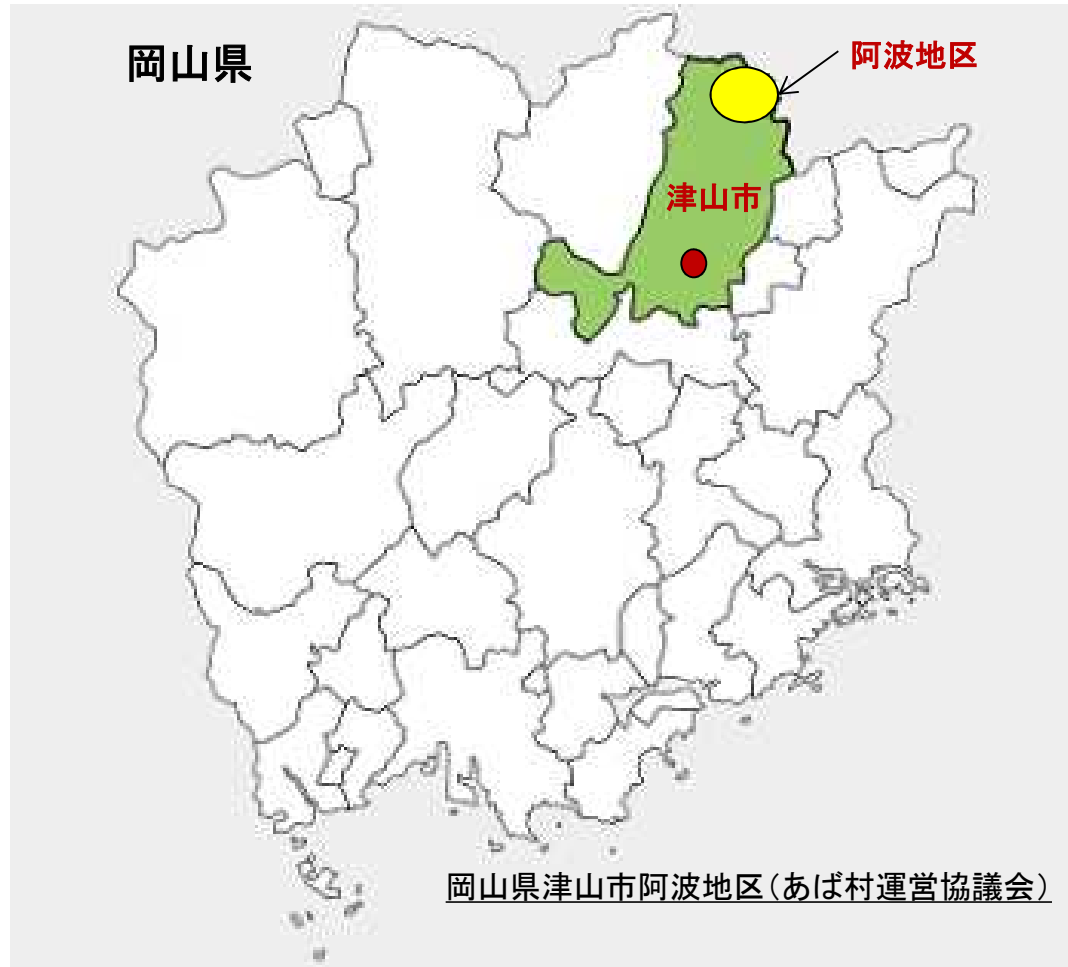


あば村宣言と「小さな拠点」づくり



阿波地区 人口563人、世帯数229世帯、高齢化率43.7% (平成27年1月1日住民基本台帳)
市役所本庁からの距離約30km



—取り組みの経過—

●平成20年度

- ・連合町内会阿波支部(8自治会)を中心に阿波まちづくり協議会発足。

住民自治協議会モデル事業(津山市)

●平成22年度

- ・阿波まちづくり協議会において環境に特化した村づくり、「**エコビレッジ阿波構想**」を策定。



協議会の様子

●平成23年度

- ・まちづくり協議会、あばグリーン公社、NPO、行政で「**エコビレッジ阿波推進協議会**」を結成し、事業推進。
- ・全世帯を対象とした暮らしの聞き取り調査

●平成24年度～ **実践的取組開始。**

- ・ごみ減量などの環境率先行動、アヒル農法の実践。
- ・NPOによる「過疎地有償運送事業」開始。
- ・間伐材の集荷・チップ化し、温泉燃料への実証実験(木の駅プロジェクト)。...



聞き取り調査の様子



アヒル農法



過疎地有償運送



木の駅プロジェクト

しかし...

115年続いた村が合併し^(平成17年)、10年。

急速な人口減

・合併時708人(平成17年3月)⇒563人(平成27年1月1日)

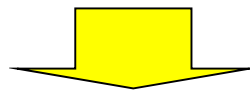
小学校
閉校

JAガソリンスタント
撤退

幼稚園
休園

役場(支所)
規模縮小

ないものだらけの
逆境のデパート状態・・・。



逆境に抗して

地域住民に留まらず、地域外からも協力者や移住してくる若者も増え始める。

挑戦1: 逆境に抗して、「あば村宣言」


あば村運営協議会 (平成26年4月～)

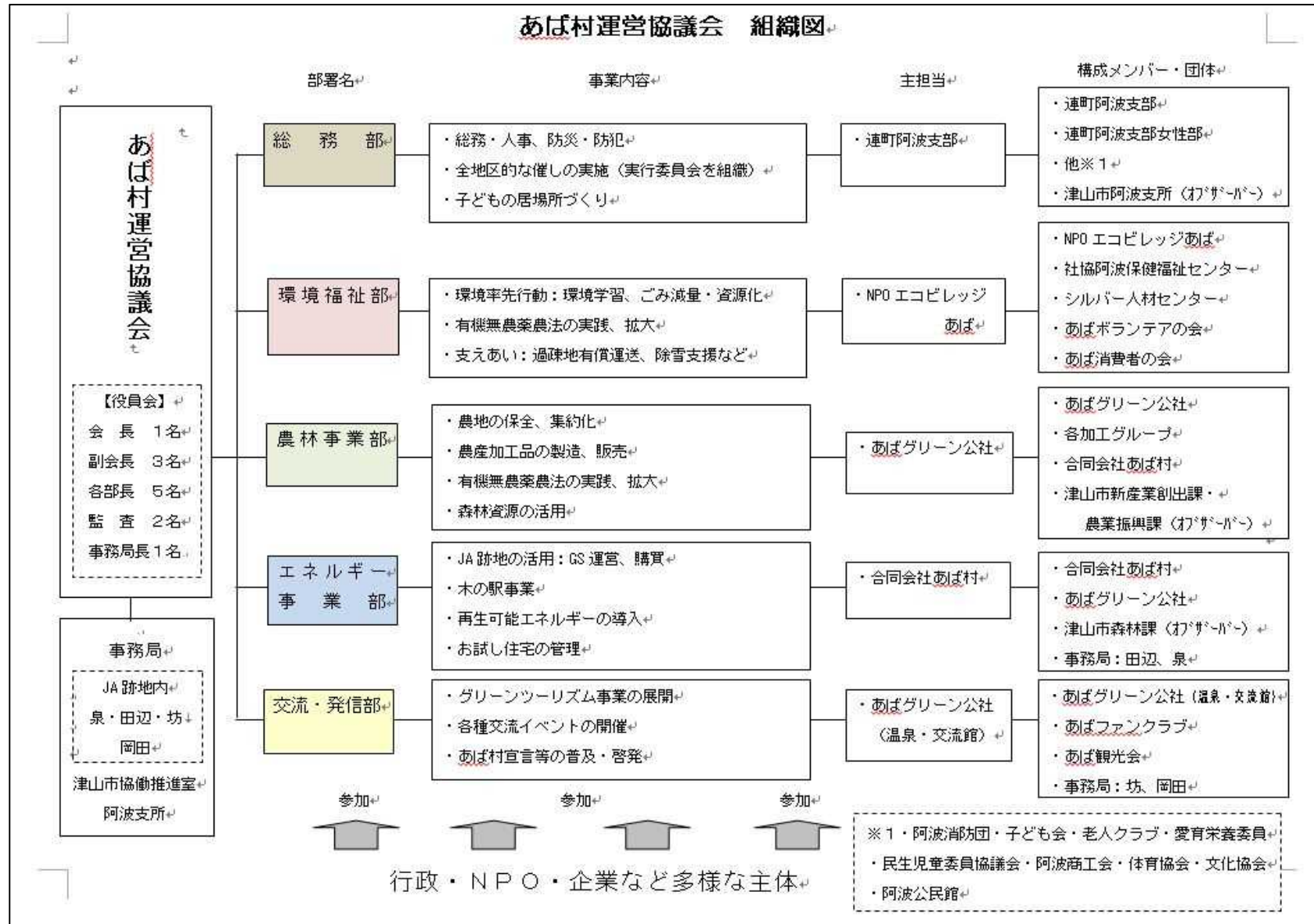


合併から 10 年、いま再び村がはじまる

・・・この度、私たちはここに「あば村」を宣言いたします。
自治体としての村はなくなったけれど、新しい自治のかたちとして、
心のふるさととして「あば村」はあり続けます。(宣言文より抜粋)



・エコビレッジ阿波構想(環境に特化した村づくり)
 エコビレッジあば推進協議会(平成22年度)  あば村運営協議会に改組(平成26年度～)



挑戦2:新しい村のかたちの論議、構築



阿波地区の中心部に集まっている公共・公益施設

- ⇒再度、それぞれの施設の役割を検討 (特に農協跡地活用、小学校跡地活用)
- ⇒異なる分野や機能の事業や施設を複合化、連携 ⇒小さな拠点の形成

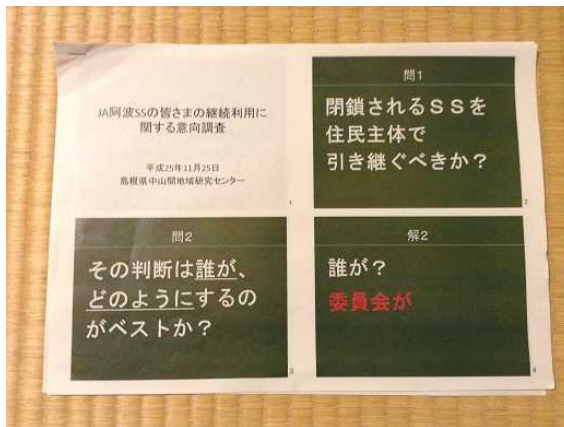
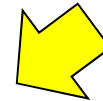
新しい村のかたち検討委員会(平成24年度～)



地元関係団体・個人、行政、専門家による円卓会議
(平成24年～)



地区唯一のガソリンスタンド、JAが撤退表明
(平成25年4月)



全世帯アンケートの実施(平成25年11月)

- ①出資をしても存続を。
- ②燃料代が上がっても買い支える。

7割



住民出資の合同会社の設立(平成26年2月)
GSの運営(平成26年6月～)

「小さな拠点」づくりモニター調査(平成26年度)

新しい村のかたち検討委員会

● 小さな拠点の核施設: ①GS拠点、②小学校跡地、③阿波支所(出張所)

● 調査・検討内容

①GS拠点の利用拡大・安定運営のための
・住民利用意向調査・施設利用者調査
・合同会社経営状況調査



GS拠点

②農産加工品の生産・販売体制の拡大のための
・G公社の経営分析
・農産加工グループ、生産者グループヒアリング
⇒小学校跡を農産物加工・交流施設に



小学校跡地

③拠点内施設のネットワーク化と「小さな拠点」の啓発
・小さな拠点マップの作成

①GS拠点：利用拡大

- ・住民利用意向調査(アンケート)：平成26年11月実施。回答者数227人
- ・施設利用者調査：平成26年11月の3日間実施。

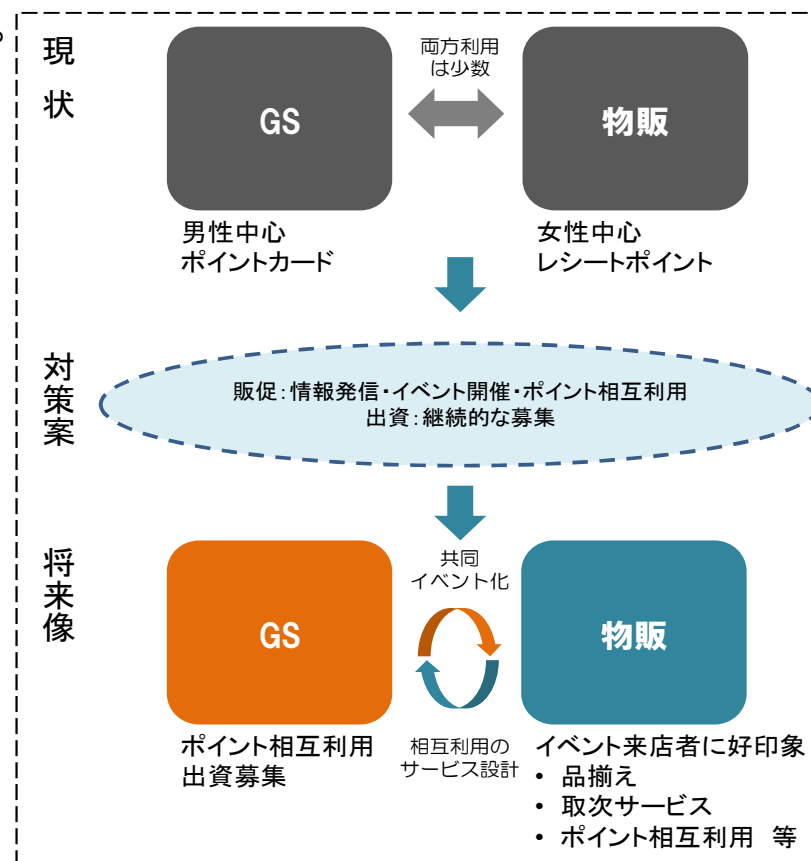
回答延べ数：64人



GS経営



購買



- ・住民の立ち寄りや集いの場(サロン)としての機能充実が不可欠。
⇒様々な層を対象としたイベントの企画や喫茶スペースのレイアウト充実。
⇒地域の交流拠点に。

①GS拠点：安定経営



GS経営



購買



木の駅事業



宅配事業



お試し住宅(旧教員住宅)

- ・GS単独では採算性が難しい。**複数の事業を組み合わせることで収益性を。**
⇒GSスタンド経営、購買、地元スーパーと連携した宅配事業、木の駅事業、
お試し住宅、小水力発電(将来)などなど

②農産加工生産・販売体制の確立

- ・小学校統合は地域にとって苦渋の選択。
- ・統合問題と併せて、跡地活用について論議
- ・あばグリーン公社が運営している加工品施設が老朽化。
⇒農産加工・交流施設に(H25、市に要望)

・課題

地域の生産体制の確立(後継者の育成・販路拡大)

⇒地域の生産・販売体制の拡大可能性調査(H26年度)

・加工グループ、野菜生産グループのヒアリング

・あばグリーン公社の経営分析

⇒パッケージデザインの統一:あば村の世界観の統一(H26年度)



小学校跡地



豆腐の製造



生産者とのヒアリング



統一デザインパッケージ

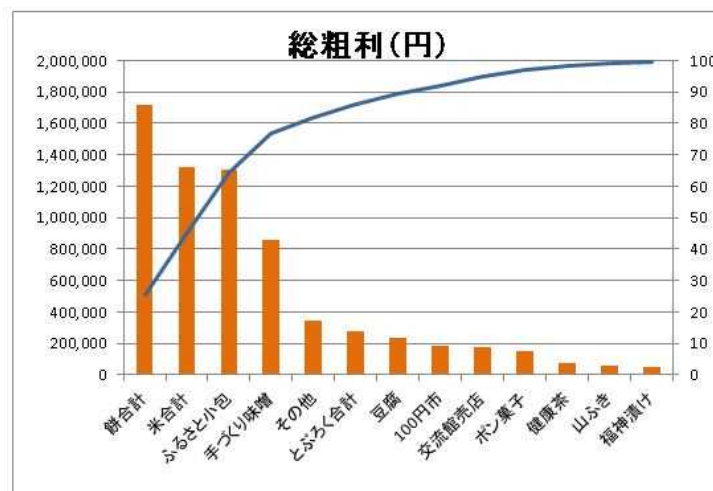
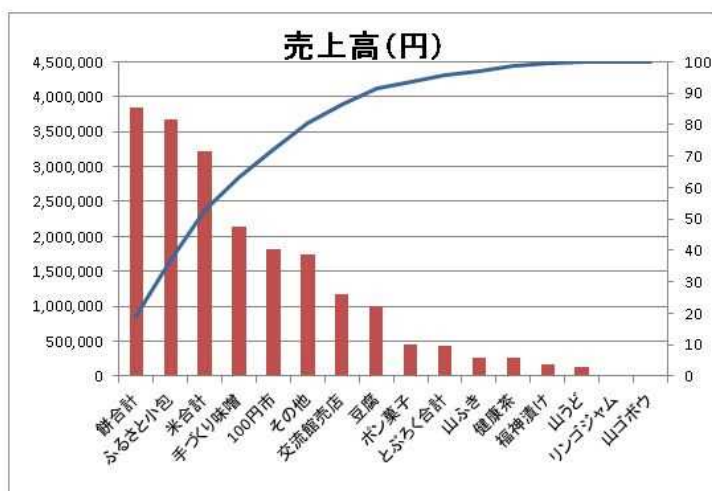
⇒施設改修の設計、地域おこし協力隊の派遣予定(H27年度～)

②農産加工生産・販売体制の確立

・あばグリーン公社の経営分析

平成25年度あばグリーン公社商品別販売高及び利益一覧表

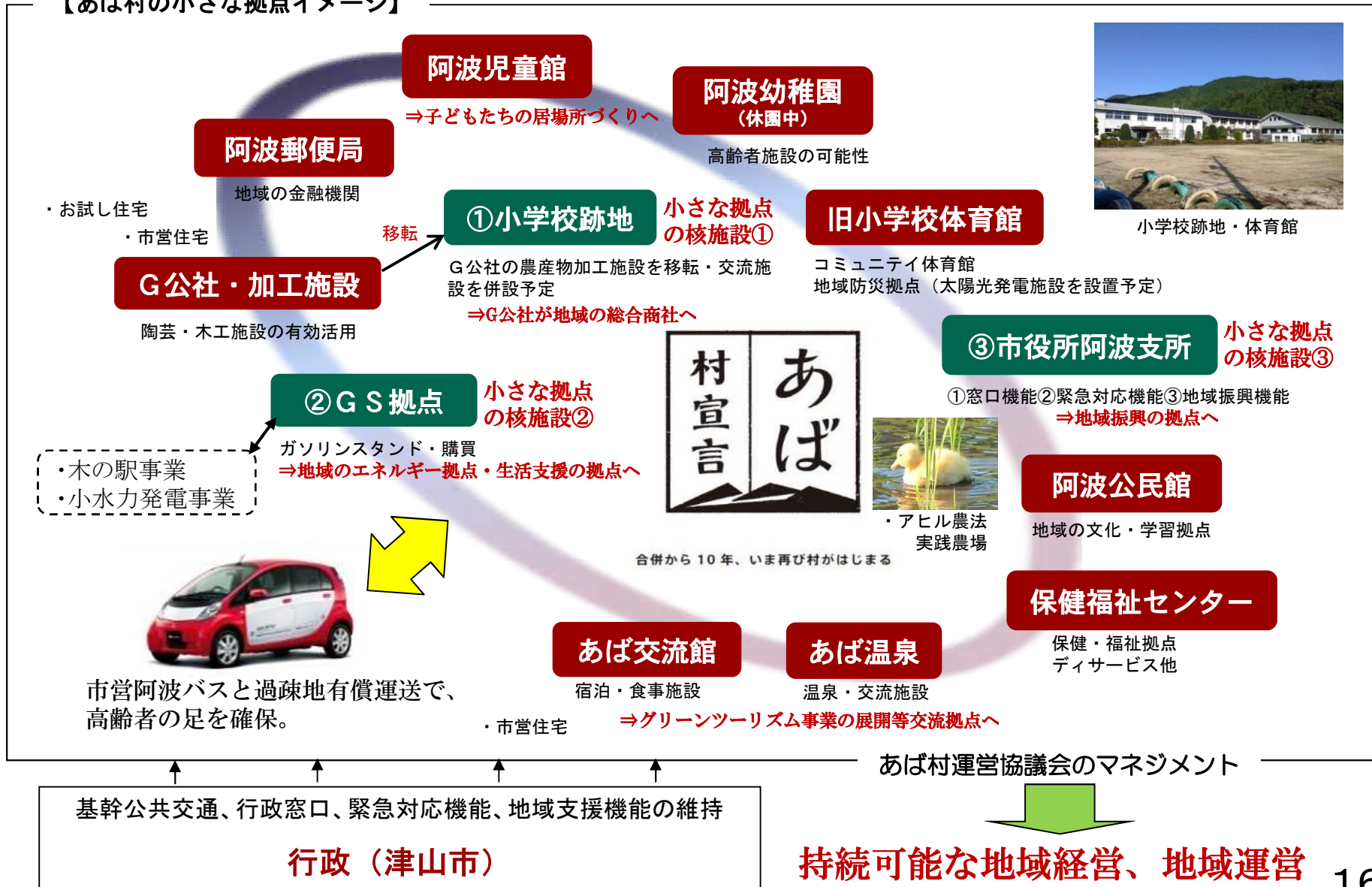
商品名	単位	① 販売単価(円)	② 商品原価(円)	③ パッケージ(円)	④=②+③ 販売原価(円)	⑤=①-④ 粗利(円)	⑥H25年度 年間販売数	⑦=①×⑥ 販売高(円)	売上高 比率(%)	累積売上高 比率(%)	⑧=⑤×⑥ 総粗利(円)	総粗利 比率(%)	累積総粗利 比率(%)	パッケージ残高
餅合計							5747	3,853,150	19	19	1,716,787	25		
ふるさと小包		4,000	2,500	82	2,582	1,418	917	3,668,000	18	37	1,300,306	19		200個
米合計							854	3,221,500	16	53	1,317,418	19		
手づくり味噌	1kg	730	359	78	437	293	2925	2,135,250	10	63	857,025	13		500枚
100円市								1,813,018	9	72	181,302	3		0
その他								1,742,355	9	81	348,471	5		1000枚
交流館売店								1,175,970	6	87	176,396	3		0
豆腐		150	105	10	115	35	6698	1,004,700	5	91	234,430	3		パック2000・フィルム5巻
ボン菓子		100	60	7	67	33	4600	460,000	2	94	151,800	2		0
とぶろく合計							447	435,600	2	96	274,095	4		
山ふき	150g	380	290	12	302	78	708	269,040	1	97	55,224	1		500枚
健康茶	70g	300	200	12	212	88	894	268,200	1	99	78,672	1		0
福神漬け	150g	370	250	12	262	108	462	170,940	1	99	49,896	1		300枚
山うど	200g	570	460	12	472	98	229	130,530	1	100	22,442	0		0
リンゴジャム	200g	350	260	5	265	85	0	0	0	100	0	0		0
山ゴボウ	150g	380	290	12	302	78	0	0	0	100	0	0		1000枚
合計							24,481	20,348,253	100		6,764,263	100		0



・餅、ふるさと小包、米、味噌の4品目で売上、利益の7割を占める。⇒戦略的強化。

③拠点内施設のネットワーク化と「小さな拠点」の啓発

【あば村の小さな拠点イメージ】



小学校跡地・体育館



アヒル農法実践農場